

「なんでも語り、学び、支え合う『ガヤガヤ交流会』」

飛騨市古川地区民生委員児童委員協議会



「ねーねーきいてー！」
「ちよっといいー！」

定例会で、隣に座った委員からの、悩み相談です。

日常的に、「相談される側」は、「相談する側」からの、多種多様な悩みや相談に適切に対応しなければならぬという課題にさらされています。そのストレスやプレッシャーは、後手にまわされます。



▲定例会(本部役員のみ)

委員とはいうもののオールマイティーではなく、課題解決は委員

自身の裁量に任せられ、相談内容の判断だけでなく、時として委員の立ち位置に悩んだり迷ったりするものです。

まして、抱え込んだ相手方からの相談内容や悩みを、委員自身がいかに専門機関に「つなげたり昇華させたり」するのか、これ自体にも悩ましさがかうかえるものです。

「学び合いと支え合い」

これまでも、定例会は「学び合う場」と「支え合う場」だという話題や課題が再三提示されてきました。

地域住民からの相談や悩みを委員一人一人が抱えるのではなく、定例会の場を通じた事例検討会や委員相互で共有することの重要性を認識しつつ、よりきめ細かく少人数グループでの相談内容や課題

への投げかけに委ねることが、効率的かつ有効的な悩みや相談の解決につながるのではないかとの方策です。

相談される側相談会

これらの策が、唯一「ガヤガヤ交流会」の場ではないかと考えています。

定例会の後半時間に、5〜6人の小グループを形成し、特に司会者をもうけることもなく、自然派生的な流れの中で誰からとなく、日頃の活動の「悩み・ぐち・相談内容」など、まさしく「腹を割った本音」での「相談される側相談会」の主旨です。

全体会では、なかなか発表や討論できない委員自身の思いや内容も、少人数の部会であれば、気兼ねなく自由さの中で、本音で検討ができ、委員自身のストレス発散

の場になるのではないかと確信をしています。

委員同士の「和」と「絆」で「組織力」を高め、委員の相互信頼の中で「学びと支え合いの場」が「ガヤガヤ交流会」にほかならないと・・・！

古川地区民生委員児童委員協議会では、委員一人一人の心の負担軽減という手だてを内包する「ガヤガヤ交流会」が唯一、活動の軸(原点)だととらえているのです。



▲民生委員児童委員同士の「ガヤガヤ交流会」